

蓮の薫る朝の思い出

埼玉県和光市

内山哲也（埼玉県上尾市出身）

内山恵子（下中田出身）

夏の朝、匂い立つような蓮の薫りで目覚める。それが私の上越の思い出です。平成四年八月、自衛官である私は仕事の都合で神奈川県横須賀市から高田に赴



新南町公園でスクスク育つ桜の木

任致しました。私が住むことになった官舎は、高田公園に隣接しており窓からはお城の堀が見渡せ、堀には一面に蓮の花が咲き誇っております。それを目にした途端、見知らぬ地に赴任した不安は吹き飛びました。また、お堀越し遙かに望む妙高山の雄姿は私に勇気を与えてくれ、新たな勤務地「高田」での希望に胸がふくらんだ事を記憶しております。私の出身地は埼玉県の上尾市です。上尾市に住んでいた頃の上越市の印象は、幼い頃、家族旅行に出かける時によく乗せてもらった早朝の列車、当時は電気機関車に引かれた客車仕立ての列車で、その行き先が「直江津行き」だったと記憶しています。「直江津」ってどんな所かな？と地図を広げて「その先は海なんだ」と海のない県で生まれ育った私は憧れとして思い描いております。

あれから二十数年後、仕事で赴任するとは夢にも思いませんでした。きつと、あの頃から私と「高田」は運命の糸で結ばれていたのでしょうか。高田での楽しかった生活も約二年間で終わりを迎えてしまいました。自衛隊には定期異動というものがあつた、二年から三年で別な部隊に転動しなければなりません。その後、現在の埼玉県和光市に移り住み、関東近辺を転動しながら勤務しております。今では結婚して三人の男子の父親となりましたが、妻は新潟出身で小学校低学年の頃に父親の仕事の関係で高田に住んでいたことがありました。結婚により私と高田との縁が再び繋がりました。

それ以来、毎年蓮の花の頃には家族で高田を訪れております。今年は、八月中旬に家族皆でオーナーとなった桜の木へ



左から耕佑、実証、拓郎の三兄弟

の対面とお城の蓮の花を見に高田の地を訪れました。

新南町公園でスクスクと育っている桜の木を発見しとても嬉しく思いました。お城の蓮の花は、昨年比べるるとやや少なく残念に思いました。また、金谷山では眼下に広がる高田平野を眺めたり子供達とスノーボブスレーを楽しんだり、今年も我が家のアルパムに上越の思い出が刻まれました。

いつの日か、再び上越で暮らす日を夢見ながら、これからも家族皆で上越の思い出を刻んでいきたいと思つています。



お堀越し遙かに望む妙高山